

米韓合同演習「ウルチ・フリーダム・シールド」でNEOを実施 NEO exercise tests operations for Ulchi Freedom Shield 24

September 9, 2024

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

第374軍支援中隊と第374憲兵中隊の空兵が8月20日と21日、米韓合同演習「ウルチ・フリーダム・シールド24」の一環で第730航空機動中隊、在日米軍、在韓米軍と協力し、非戦闘員退避活動(NEO)の訓練を横田基地で実施した。

「ウルチ・フリーダム・シールド24」は防衛に重点を置いた演習で、米韓同盟の強化、合同防衛態勢の向上、また朝鮮半島の安全保障と安定を促進することを目的としている。

この演習で、キャンプ・ハンフリーの米陸軍第8軍の兵士55人が横田基地第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズで横田に移動した。朝鮮半島から非戦闘員を退避させるシミュレーションを、実際に起こり得るロジスティクス上の課題を想定しながら行うことで、合同部隊全体の即応能力の強化を図った。

横田基地はNEOの受け入れを行い、退避中の人々の情報を管理するNEO追跡システム(NTS)の運用などを行った。

「この演習の目的のひとつは、太平洋地域のさまざまな国でNTSシステムがリアルタイムで作動するかを確かめることだった」と第374軍支援中隊即応・計画・遺体安置部監督官のマリア・ガフォード曹長は述べた。「横田とキャンプ座間のNTSオペレーターは、必要なデータをシステムに送り、すべての人員の所在を確認できるようにした」

横田に到着した模擬のNEO退避者は、第374経理部とミリタリー&ファミリー・レディネス・センターの職員から、ファイナンスやロジスティックに関する退避中の生活に必要な情報を受け取った。またアメリカ赤十字の職員が軽食を提供し、米陸軍第765輸送ターミナル大隊の兵士が即席の食料を配給した。

「流れはとてもスムーズだった」とガフォード曹長は振り返り、特に印象に残ったこととして、「赤十字のメンバーがクッキーを焼いてくれたり、淹れたてのコーヒーを出してくれたりして、移動中の参加者の疲れを癒してくれた」と話した。

また訓練では、在日米軍兼第5空軍司令官リッキー・ラップ中将が、航空自衛隊航空支援集団司令官の森田雄博空将を招き、模擬退避を視察した。二人は、非戦闘員の退避におけるロジスティック支援について説明を受けた。

NEOは、米務省の指示によって自然災害や人的災害、その他の危険な状況から米国民や国防総省の民間人、その他指定された接受国や第三国の国民を安全に退避させる作戦である。

2011年3月、日本でマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、大津波の襲来によって福島第一原発事故が発生したことを受け、9,000人以上の国防総省の家族が国外に退避した。その際のNEOで、自主退避に臨んだ家族は安全に本国に帰国した。

